慶應 SFC 学会

(A) 研究成果発表 (学会発表)

第28回国際 RNA 学会 シンガポール 成果報告書

伊藤らら (慶應義塾大学 政策・メディア研究科 修士課程1年)

学会概要

研究タイトル:In vitro synthesis of (G4C2)n RNA for the study of G-quadruplex gel formation in ALS

発表形式:ポスター

学会名:第28回国際 RNA 学会 (The 28th Annual Meeting of the RNA Society)

開催場所: シンガポール・Suntec Convention Centre 参加期間: 2023 年 5 月 29 日~2023 年 6 月 4 日

開催形式:現地対面

学会報告

この度 2023.05.29-06.04 の期間シンガポールで開催された第 28 回国際 RNA 学会 (The 28th Annual Meeting of the RNA Society) に研究の進捗をポスター形式にて発表するべく、学会に参加した。本学会は、 年に1度世界中で RNA に関する研究を専門的に行う研究者が一同に集まり、研究の成果や進捗を発表す る場である。昨年の開催まで新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学会もオンライン開催をしてい たが、第5類に下げられたことで今年の国際学会はオンサイトにて行う運びとなった。28回目の開催で あるため、学会として歴史は浅いが、第28回の学会では1000人以上がシンガポールへと足を運び、世 界トップランクの大学の学生、研究者、PIと交流することができた。国際学会のため、言語は英語で自身 の研究成果をポスターで発表した。この度の学会では私の研究テーマに類似した研究、グアニン四重鎖 (G-quadruplex) や筋萎縮性硬化症 (ALS) に関する研究成果を報告している方も多かったことから自身 のポスターにも同様の研究を行う学生、PI が発表を聞きにきてくれた。特に台湾大学の研究室からは共 同研究のオファーをいただけたり、John Hopkins 大学やスイス大学の PI とは研究手法に関するアドバイ スもいただけたりと、テーマの類似性から海外研究室インターンのオファーなど海外を拠点する研究生活 も視野に入れることができた。賞などは受賞できなかったものの、自身の研究と研究生活の今後の可能性 について考えさせられ、大きく進歩することができた有意義な時間だった。他にも若手研究者(ポスドク の学生まで)の集う会や海外での就職支援会、他国の PI と話しながら食事ができる会など学会では研究を 聞く以外にも研究者と交流する機会や支援に関する催しものも多数用意しており、大変興味深く且つ日本 国内以外の同年代くらいで世界で研究をする人々と知り合いになることができ、大変貴重な体験をするこ とができた。

